



F - Release

エフ・リリース
NPO法人 ふじ環境倶楽部 情報誌
VOL.52 2007. 8.31 発行

NPO法人 ふじ環境倶楽部は、市民・企業・行政のパートナーシップを基本としながら、

富士地域の自然及び社会的資源の掘り起こし、磨き上げ

地域資源を活用したまちづくり計画の策定、まちづくり活動の実践

市民団体相互のネットワークの構築 等を通じて、市民がこの地域で誇りを持って働き、暮らしていける「資源循環・環境共生型のまちづくり」を目指して、楽しく、ゆっくり、着実に歩んでいます。(平成12年11月9日 法人設立)〒417-0815 富士市増川19-1

TEL.0545-38-0088 FAX.0545-39-0057

TEL.0545-38-0088 FAX.0545-39-0057

E-mail: info@ad-ism.com URL: http://www.fujikankyo-club.org

平成19年8月4日(土) 富士山国有林下草刈り

参加者：渡井、小池、藤田、浅井、加藤、秋山、井出、田中、太田、渡辺(祐司)山田(美幸) 渡辺(孝) 藤島、荻田(静新) ほかに計15名

毎年この時期に行い、今年で7or8回目になる。平成8年の台風で壊滅的な被害(風で木が倒れた)を受けたエリアに植林した苗木(ここは営林局が植林した)が、下草やツルに負けずに育つよう、10年くらい続ける作業だ。前の日から雨が心配だったが、「山はどっちみち天候が変わりやすいからとにかく行こう」と決行した。

参加者は少ないが、そこは「武器」で勝負とばかり、毎年5台程度しかない「刈り払い機」をそこらからかき集め12台用意したおかげで、午前中で予定のエリアは終了した。

実は、このエリアの少し離れた場所に、やはり7or8年前に我々が植林した100坪ほどのエリアがある。毎年、午前中のエリアの下刈りを終えるのが精一杯で、これまで一度も100坪の場所は下刈りをしてこなかった。

昼飯を食べながら「午後は、100坪の方もやろう」ということになり始めた。しかし、7~8年何も面倒をみてこなかった場所はカヤが人間の背丈以上に育ち、入っていくのも容易ではない。

刈り払い機を使いたくても、ほとんど目立たない苗木もいっしょに刈ってしまいそうなので、カマで切り開いていく。これがやはりなかなかの重労働だ。でも見つかる苗木は少なく、あってもヒョロヒョロで小さい。1.8m間隔でメッシュ状に植えたのに…。大半はカヤなどに負けて、枯れてしまったのだ。

「捨て子をして、その子のことを何も気にかげずにいた親」(?)のようで、恥ずかしく申し訳ない気持ちで一杯だった。せめてものつくはないは、残った子供をしっかりと育て上げることがか?

【感想：小池さんのブログより引用】



一面霧の中の富士山でヒノキとかの植林地の下草刈り作業(林業体験)今年が最後ってことでやって来ました。人数が去年より少ないはずだったけど機械の力と坪刈?壺刈?方式による省力化によるのか早く終了しました。

昼食後に帰ろうとしたら以前植林したままのところを見よう、ってことになって2mぐらいの草に覆われた中に入って刈ってみたら、植えたヒノキが見つかった。中にはほとんど植林した時から成長してないものまであって、宝探し気分です。刈りはじめたら夢中になってしまいました。結構埋もれていても生きているものですね。トトロの道(けものみち)を結構つぶしちゃったけどいまごろ動物が困っているかも結局午前よりの午後の作業の方がつらかった気がする。

でも夜にはビールをたらふく飲んだので出っ張ったビールっ腹はそのままです。

【感想：渡井代表のブログより引用】